

<推奨コース>

Aコース 館山駅から崖観音へ [距離] 約 5.8km [所要時間] 徒歩約90分



Bコース 館山駅から沖ノ島へ [距離] 約 5.1km [所要時間] 徒歩約80分



<おすすめスポット>



1 崖観音(がけかんのん)

船形山大福寺(通称:崖観音)【真言宗】十一面観世音菩薩

「崖の観音」で有名な大福寺は船形山の中腹にある。断崖の途中に張りついて見える赤い舞台造りの観音堂の中に「崖の観音様」が刻まれている。寺の由緒では崖観音は養老元(717)年に行基(ぎょうき)がこの地へ来て崖に刻んだと伝えている。その後慈覚(じかく)大師により堂宇が建立されたが、承応(じょうおう)2(1653)年の火災により朱印状・寺宝等すべて焼失、正徳(しょうとく)5(1715)年に諸堂を再建したが大正 12(1923)年の関東大震災によってまたも倒壊、同 14(1925)年現在の堂宇を建立した。崖観音は平安時代の中頃に造られたと考えられる磨崖(まがひ)仏(ぶつ)として市の指定文化財である。船をふせた船底の形をしている船形山の観音様は、漁師などから海上安全の守護仏として信仰されてきた。船形では江戸時代から魚を江戸へ送っていたので、境内の灯籠などは魚河岸(うおがし)の魚問屋が奉納している。隣には船形の鎮守諏訪神社が鎮座しており、江戸時代までは大福寺が諏訪神社の別当を務めていた。堂の桁(けた)下には左甚五郎作といわれる十二支の彫刻があったが震災により損壊、現在は四支だけとなっている。堂の欄干(らんかん)越しの眺望はまさに絶景といえる。



6 北条海岸(ほうじょうかいがん)

北条海岸を中心とする館山湾は、「鏡ヶ浦」とよばれ、夏は涼しく海は遠浅で、しかも広い砂浜と松林があったことから、海水浴場として明治時代から親しまれています。北条海岸一帯ではヨットやウィンドサーフィンなどのマリンスポーツも盛んで(海水浴用エリアは除きます)、空気の澄んだ日には、美しい富士山を眺めることが出来ます。また、館山湾に沈む夕日は、あたり一面をオレンジ色に染め、その光景は格別です。毎年8月8日には館山市の夏の最も大きなイベントである館山湾花火大会が開催されます。スターメインや水中花火など約 10,000 発の花火が鏡ヶ浦や夜空を鮮やかに彩ります。また、花火をバックに海岸の特設ステージで「花火とフラメンコ」と題して、全国学生フラメンコ連盟による情熱的な舞踊が披露されるのも呼び物の1つです。



10 渚の駅”たてやま(なぎさのえきたてやま)

“渚の駅”たてやま(平成 24 年 3 月 25 日オープン)は、館山市を訪れた人々の「安らぎの場所」「憩いの場」として、そして人と人とを結びつけることを目的として整備された交流拠点施設です。



城山公園・館山城(しろやまこうえん・たてやまじょう)

里見氏の居城・館山城跡を戦後に整備した公園です。山頂には天守からの鏡ヶ浦を中心とした市街地が一望できる三層四階天守閣様式の博物館分館、中腹の館山市立博物館と併せて歴史の散策が楽しめます。公園内には季節に合わせて水仙、梅、椿、桜、ツツジ、さつき、あじさい、山茶花などの花木が咲き揃います。頂上付近には万葉集に詠まれた植物を小径に集めた「万葉の径」や「つばきの径」がつくられ、桜、松、梅が配植されています。桜は名所の一つとなっていますので、4月上旬の開花時期は花見客で賑わいます。白砂利の枯山水や小流れをしつらえた日本庭園と茶室は茶会等に利用でき、公園全体が市民の憩いの場となっています。また、芝生広場や児童公園、博物館本館も公園内にあります。芝生広場には、土産処「里見茶屋」もありますのでご利用下さい。



15 沖ノ島(おきのしま)

沖ノ島は館山湾の南端に位置している島で、南房総国定公園の一つです。以前は 500m沖合いにあった島ですが、関東大震災による隆起などで、現在は陸続きになっています。島の周囲は1km 程度の小さな島ですが、場と砂浜が混在し釣りを楽しめるほか、島内はヤブニッケイやタブノキなど温暖帯の海岸林で覆われ、海岸動植物が共存するネイチャーアイランドです。東岸は海藻の群落が目につきます。西岸は海貝の採集に南岸は比較的水深が浅く、初心者のシュノーケリングが楽しめます。北岸は水深2m以深からは世界最北地域のサンゴの観察も可能です。また、近くの館山湾は波が穏やかで静かなので別名鏡ヶ浦と呼ばれ、海岸からは平らな波の彼方に富士山、相州連山が眺められ、特に富士山を望んでの落日は絶景です。周辺には、城山公園、館山海軍航空隊赤山地下壕跡などがあります。